

令和8年産

大崎稲作情報 第5号

令和8年7月13日発行

宮城県米づくり推進大崎地方本部

大崎農業改良普及センター

TEL:0229-91-0726 FAX:0229-23-0910

<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

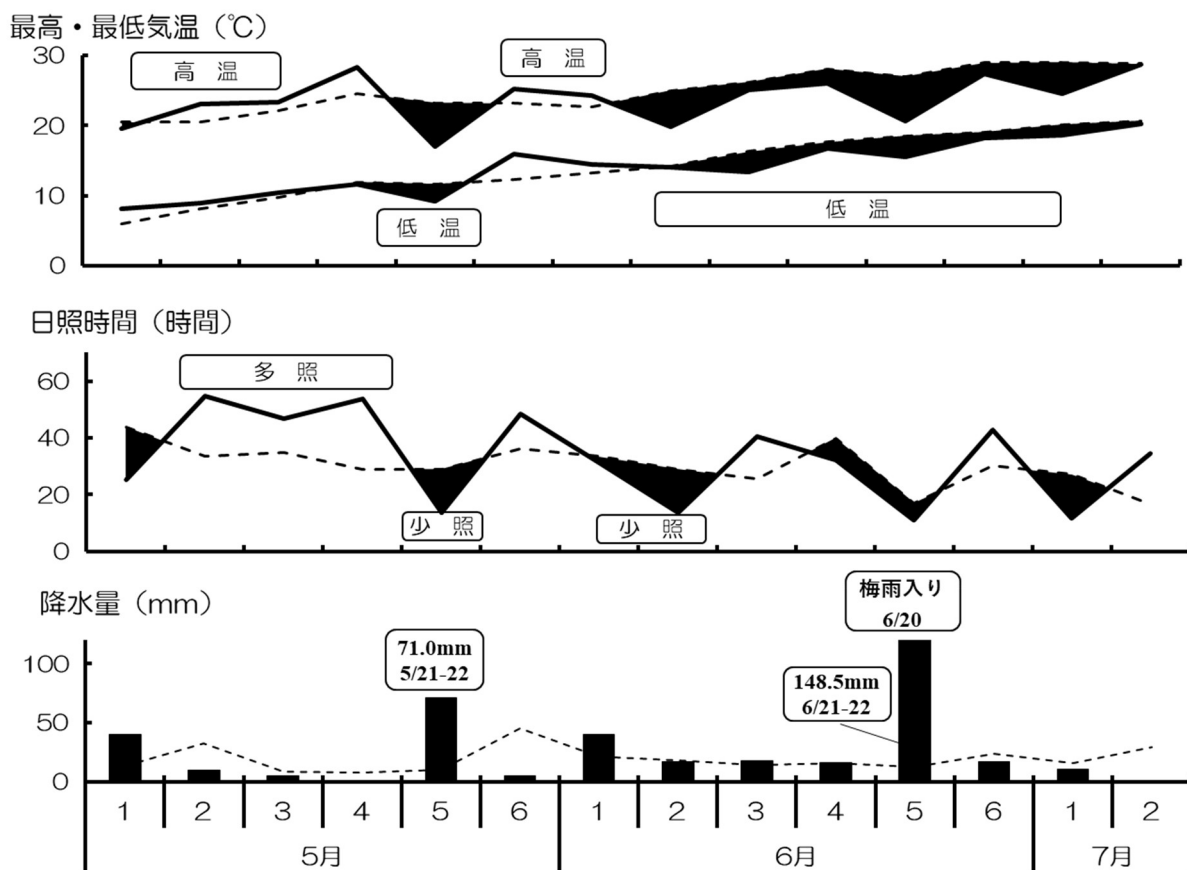
今後の管理のポイント

- ✓ 白未熟粒の発生を防ぐため、稲の生育量に応じて追肥を行いましょう。
- ✓ 幼穂形成期に達したほ場では、間断かん水を行いましょう。
- ✓ いもち病や斑点米カメムシ類防除に努めましょう。

1 気象経過（前5か年間平均値との比較）

6月第2半旬以降、過去5か年と比較して気温は低めで経過しています。日照時間は多照と少照を繰り返しており、総じて少照となっています。梅雨入り（6月20日）後に大量の降雨があった後も概ね平年並みに断続的に降雨がありました。降雨や曇天が続いたことで、日照時間が少なくなりました。

図1 5～7月上旬の気象（古川アメダス） ※前5か年平均値との比較



2 生育概況（7月10日現在）

6月第2半旬以降の気象経過により、移植栽培では、生育量が過去5か年平均を下回っています。葉色は平年に比べて少なかったですが、原因として、6月の低温により、地力の発現が少なかったことが考えられます。幼穂は確認されましたが、こちらは平年並みでした。幼穂形成始期には平年よりも2日遅く達しています。

乾田直播栽培では、大崎市古川のほ場で草丈が、前年を上回りましたが、ほ場内での生育ムラ

もあり、茎数が前年を大きく下回りました。大崎市三本木のほ場では移植栽培「ササニシキ」の茎数を上回りました。いずれのほ場でも目標茎数（穂数目安460本～500本/㎡、7/13茎数の目安720本～760本/㎡）に達しておらず、今後の生育が期待されます。

表1 生育調査結果

栽培様式	品種名	地区名	前作	田植日 播種日 (平年・前年差)	7月10日					幼穂 形成始期
					茎数 本/㎡ (平年・前年比)	草丈 cm (平年・前年比)	葉色 GM (平年・前年差)	生育量 茎数×草丈×葉色 (平年・前年差)	幼穂長 mm (平年差)	
移植	ひとめぼれ	大崎市三本木	水稻	5月5日 (+1)	570 (101%)	65.7 (91%)	37.4 (-4.6)	14.0 (82%)	8.4 (+0.4)	7月5日 (+2)
	ササニシキ	大崎市古川	水稻	5月10日 (+3)	495 (99%)	57.7 (87%)	37.3 (-4.7)	10.7 (76%)	1.7 (-0.4)	7月9日 (+2)
	平均			5月7日 (+2)	532 (100%)	61.7 (89%)	37.4 (-4.7)	12.3 (79%)	5.0 (0.0)	-
乾田直播	ササニシキ	大崎市古川	水稻	4月8日 (-20)	382 (58%)	52.9 (113%)	34.3 (-0.3)	6.9 (65%)	0.0 -	-
		大崎市三本木	水稻	4月13日	524	60.4	37.7	11.9	0.0	-
	平均			4月10日	453	56.7	36.0	9.4	0.0	

※田植日の+は遅いことを、-は早いことを示す。乾田直播はいずれもグレーンドリル鎮圧方式による。
※平年比・差は前5か年（令和3～7年）の平均値との比較。
※生育量は茎数/㎡×草丈 cm×GM 値÷10 万で求める指標で追肥判断等の目安となります。
※大崎市古川乾田直播は昨年度から計測したため、前年値との比較。大崎市三本木乾田直播は今年度から計測。乾田直播の平均は今年度のもの。

3 出穂予想（参考値）

移植日と移植時葉数、日別気象データを基に発育予測（DVR 法）を行ったところ、古川農業試験場作況試験ほ「ひとめぼれ」の**出穂期は8月1日～8月8日頃**となる見込みです。今後の天候により、生育ステージが予測値から変動することがありますので、ほ場の幼穂長を確認し、随時生育ステージを把握することに努めましょう。

表2 古川農業試験場作況試験ほ「ひとめぼれ」の生育ステージの予測（令和8年7月10日現在）

移植日	移植時	予測日			前年出穂期	平年出穂期
	葉数	幼穂形成始期	減数分裂期	出穂期	(実測値)	
5月11日	2.1	7月10日	7月20日	8月1日	7月28日	7月30日
5月20日	2.5	7月16日	7月26日	8月8日	8月2日	8月3日

※品種は「ひとめぼれ」を用いたもので、移植日はそれぞれ、5月11日、5月20日。
※幼穂形成期及び出穂期は DVR 法による予測。減数分裂期は幼穂形成期の10日後とした。
※気温はメッシュ農業気象データ（農研機構）により、当日までの実況値とその後26日間の予報値を使用した。

表3 地帯区別の生育ステージの予測（令和8年7月10日現在）

地帯区分	田植盛期	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
北部平坦	5月12日	7月7日	7月17日	7月30日
西部丘陵	5月13日	7月8日	7月18日	7月30日
山間高冷	5月15日	7月14日	7月24日	8月13日

※品種は「ひとめぼれ」を用いたもので、予測方法や用いた気象データは表2と同様。
※移植時葉数は県生育調査ほと古川農業試験場作況試験ほ平均の3.0葉とした。

4 今後の管理

※1か月予報では高温となる見込みです。高温対策技術を励行しましょう。

1) 追肥 白未熟粒の発生を防ぐため、生育量を基に施用を判断

- ✓ 高温下では、籾数過多や登熟期の窒素栄養不足により白未熟粒の発生が助長されるので、ほ場ごとの地力に応じた適正な施肥管理に努め、必要に応じて適期に追肥を行いましょう。
- ✓ 生育量が不足している（葉色が薄い、莖数不足等）場合には、追肥が必要ですが、過剰な追肥は倒伏や病害虫の誘発へとつながります。追肥の実施は、生育量（葉色の濃さ、倒伏診断指標等）を基に判断しましょう。
- ✓ 追肥の効果や各品種の目安、倒伏診断指標については稲作情報第4号を参照してください。

2) 水管理 幼穂の発育には水の吸収が不可欠、高温対策と節水を兼ねた飽水管理を

- ✓ 幼穂形成期に達したほ場は間断かん水を行いましょう。特に減数分裂期～出穂期前後は水の吸収量が最も多い時期となります。この時期に水分が不足した場合、幼穂の発育や開花・受精が妨げられます。間断灌水により土中に酸素が供給されることで根の活性も維持されます。
- ✓ 低温時（日平均気温 20℃以下が長期間続く、または最低気温 17℃以下）の際は障害不稔が発生する恐れがありますので、深水管理としましょう。

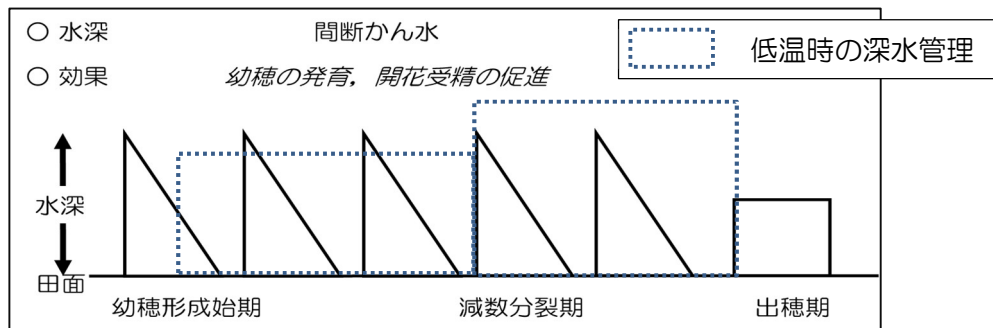


図2 今後の水管理

- ✓ 出穂期以降の夜温が高いと、湛水状態では夜間の水温が下がらないため、稲体の温度も下がらず、光合成で作られた養分を呼吸で消費してしまうことで、白未熟粒の発生を助長します。高温時は、根の活力維持、地温の上昇抑制のため、走水等により土壌を常に湿潤状態に保つ飽水管理を実施しましょう。飽水管理は、限られた用水でも実施可能です。

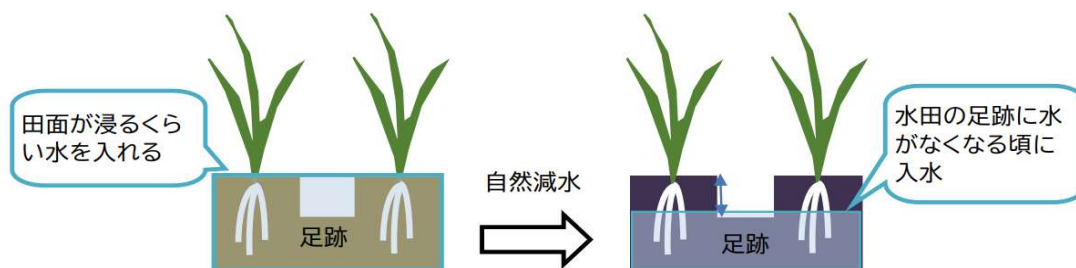


図3 飽水管理のイメージ

3) 病害虫防除 出穂予想に基づいて適期に実施

葉いもち：7月中旬以降は、育苗箱施用剤の効果が低下し始めるとともに、追肥等で葉色が濃いほ場は葉いもちが感染しやすい環境となります。ほ場をよく見回り、発病が見られた際は速やかに茎葉散布剤で防除しましょう。特に、上位葉での発病は穂いもちの重要な伝染源になるので注意しましょう。7月上旬に葉いもちの感染好適条件が出現しているため、今後の発生に注意しましょう。

穂いもち：水面施用剤による予防防除を実施する場合は、生育状況をよく観察し、出穂期の予測に基づき使用時期（出穂 20～10 日前頃）を逸さないように注意しましょう。

紋枯病：宮城県病害虫防除所による6月下旬の巡回調査の結果、発病株率は平年よりやや低かったとのことですが、高温下では、紋枯病が発生・拡大しやすくなります。前年に紋枯病が多発

したほ場では穂揃期に茎葉散布剤を散布するなど、防除を徹底しましょう。

稻こうじ病：窒素過多で発生が助長されるので追肥の際は注意しましょう。

斑点米カメムシ類：高温下では、斑点米カメムシ類の活動が活発化し、斑点米が増加する傾向があります。宮城県病害虫防除所の巡回調査では、水田のすくい取り虫数は平年より多くなっています。薬剤防除は穂揃期とその7～10 日後の2回防除を基本とし、2回目の薬剤散布以降も斑点米カメムシ類の発生がみられる場合は、追加防除を実施しましょう。

多発の原因となるイヌホタルイやノビエが残草したほ場では、1 回目の殺虫剤散布を出穂始期～穂ぞろい期に早めることで、斑点米カメムシ類の密度を低下させることができます。

表4 主な病害虫の防除方法、防除時期の目安

病害虫		防除方法	防除時期の目安	30日前	20日前	15日前	10日前	5日前	出穂期	穂ぞろい期	穂ぞろい期 10日後
いもち病	葉いもち	茎葉散布剤	発生が確認されたら直ちに散布	防除時期							
	穂いもち	水面施用剤	出穂30～5日前まで	防除時期							
紋枯病		茎葉散布剤	穂ばらみ期～出穂期		防除時期						
		水面施用剤	穂ばらみ期		防除時期						
稻こうじ病		水面施用剤	出穂20～10日前まで		防除時期						
斑点米カメムシ類	畦畔の草刈り		出穂期10日前まで	草刈り時期							
	殺虫剤×2		穂ぞろい期とその7～10日後							1回目	2回目

東北地方 1 か月予報（7 月 1 1 日から 8 月 1 0 日までの天候見通し）

令和8年7月9日 仙台管区気象台 発表※抜粋

<予報のポイント>

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

<向こう1か月の天候>

- ・期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気 温】	東北地方	10	40	50
【降 水 量】	東北地方	30	40	30
【日照時間】	東北地方	30	40	30

<気温経過の各階級の確率（％）>

		低い	平年並	高い
1 週 目	東北地方	10	10	80
2 週 目	東北地方	10	40	50
3～4週目	東北地方	30	40	30

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆農薬危害防止運動実施中（6月1日～8月31日）◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。「使用前、周囲よく見て ラベル見て」

★★

古川農試に設置されている生育モニタリングほ場（「だて正夢」・「金のいぶき」・直播栽培）や県内全体の水稻生育情報はこちらからご覧いただけます。

<<https://www.pref.miyagi.jp/site/seikuzyoho/index.html>>

★★



「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右の QR コードを読み取ってください。

